

飴葉プラザ2階の「コワーキングスペース kokage」は、村山市の新たな賑わいの創出のために、起業を目指す人や新しい事業を始めようとする方々を応援し、同じ目的を持つ人同士の交流の拠点を目指しています。今回は、SNSを活用して全国的に事業を展開されている村山市出身の事業者さんをお呼びして事業立ち上げの経緯や、働き方を伺いました。



講師は、店舗を持たない花屋「IRIE PLAN(アירリープラン)」の増田健太郎さん。実店舗は無く、電話やLINEから注文を受けてフラワーギフトを作り、お客様に届けるサービスを提供しています。増田さんが発信するSNSの内容に共感した人がお客様となり、今では日本中、そして海外からもギフトの注文もあるそう。オンラインを含めて22名の方が参加。SNSの活用について見直すきっかけになりました。



【発行】村山市政策推進課 地域おこし協力隊 小関恵子
【問合せ先】村山市政策推進課 活性化施設整備係
【Tel】0237-55-2111 【Fax】0237-55-0260

Link MURAYAMA 公式 SNS



公式 Twitter



公式 Instagram

2022年2月発行

Link News



令和4年度オープン予定のにぎわい創造活性化施設『LinkMURAYAMA (リンクむらやま)』の現在の状況や施設に関する情報を皆様にお届けします。

Vol.4◇メディカルフィットネスジムの会員募集開始について
◇「楯岡高校がLinkMURAYAMAになるまで」前編
◇起業・新事業応援セミナー”IRIE PLAN”

Link MURAYAMA の健康増進施設

メディカルフィットネスジム「ウェルベース村山」

入会受付 開始しました!!

1階

最新マシンを設置し
有資格者が指導してくれるジムスペース

2階

健康体操やヨガ、TRX(天井に固定した器具を用いて行う新しいトレーニング方法)などのレッスンが受けられるスタジオスペース

ウェルベース村山は
こんな方におすすめ



村山市医師会
(株)ドリームゲート
(株)タニタヘルスリンク
テクノジムジャパン(株)

山形県村山市

生活習慣病を予防したい
運動はもともと苦手
本格的にトレーニングしたい
関節があちこち痛い
理想的なからだになりたい

メディカルフィットネスとは...
専門的な技術を持つ
各分野の民間組織と
村山市の医師会が
連携しあった取り組みです。

ウェルベース村山 入会&問合せ先
株式会社ドリームゲート
TEL:080-1852-7665



楯高が賑わいを生む施設になって 戻ってきます

「Link MURAYAMA」の前身「県立楯岡高等学校」は、県の高校再編整備計画の対象となり、平成 28 年閉校となりました。

この跡地のその後について、どう検討され、決定するまでにどのような経緯があったのか。

当時の担当課長だった佐藤洋介隊員（現・村山市地域おこし協力隊）に聞きました。

楯岡高校が LinkMURAYAMA になるまで 前編

平成 28 年3月、約 800 人の生徒・教職員がいた楯岡高校が閉校しました。当面は楯小の仮校舎になるものの、次の用途は未定。巨大跡地がまちの真ん中にできたのです。まちが郊外に広がり、古くからあるまちが空洞化すると、シャッター街になったり空き家が放置されたりと問題が生じます。楯高でも、周辺への人流が消え、建物に動物が侵入して荒れていくなどの悪影響が出ました。「楯高利活用は空洞化するまちの再構築への挑戦」「そのために有効な利活用方法とはなんだろうか」、そんな考えを巡らせながら検討をはじめました。



H30.6 楯高跡地利活用ワーキングチーム第一回検討会議



H30.8 秋田県五城目町視察「BABAME BASE」

巨大な楯高跡地を複合的に使う

当初、高校・大学・専門学校などの誘致を考えました。学生でにぎわうし、学校跡地は学校にするのが一番なじむだろうという発想です。

跡地の所有者であり高校の設置者でもある県に要望するほか、国内すべての学校(1,769 法人)にアンケート調査をしました。複数の専門学校から有望な回答があり意見交換をしましたが、仮に専門学校を設置するにしても跡地の一部で十分ということがわかりました。

結局、誘致は叶いませんでしたが、跡地すべてを一つの用途で埋めるのはとても難しいことがわかり、利活用の検討は色々な用途を複合的に考えていく方針にシフトしていきました。



R1.11 楯高跡地利活用ワークショップ第1回



R1.12 楯高跡地利活用ワークショップ第2回

官・民が協働する面白い拠点に

跡地の複合利用を進め、空洞化したまちの再構築をも目指すには、住民・事業者の皆さんの協力を仰ぎ、リンクし、「協働」していくことがとても重要です。利活用への関心を募るため、物件情報を公開し、少しでも関心の声があれば意見交換するなど、模索を続けました。そうしている内に、ありがたいことに利活用希望者が少しずつ増え、用途の提案がそろっていきました。

平成 30 年夏、希望者の皆さんと一緒に秋田の事例を見に行きました。そこでは、廃校に事業者が入居し、地元住人と一緒にまちづくりを進めていました。面白い人材や情報が集まるようになり、伝統の朝市が活性化し、商店街への新規出店もあったそうです。「廃校利活用+市街地の再構築」のモデルを見た印象でした。こうした検討を経て、一般的な公共施設から一步踏み出し、官・民の協働の拠点として構想されたのが Link MURAYAMA です。

次号の後編では、複合拠点としての狙いを書こうと思います。次回もぜひご覧ください。



R2.1 先進事例視察「世田谷ものづくり学校」



R2.1 先進事例視察「アーツ千代田3331」